

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模	経営・技術の特徴
輪ぎく専業	人 3	秋ぎく11・3月出荷型(2度切り) 10 秋ぎく12・4月出荷型(2度切り) 10 秋ぎく1・5月出荷型(2度切り) 10 秋ぎく2月出荷型 10 秋ぎく3月出荷型 10 秋ぎく10月出荷型 10 秋ぎく11月出荷型 10 秋ぎく12月出荷型(短茎多収) 10 夏秋ぎく6月出荷型 10 夏秋ぎく7月出荷型 10 夏秋ぎく8月出荷型 10 夏秋ぎく8月出荷型(短茎多収) 10 秋ぎく9月出荷型(シェード) 10 計 130 経営耕地面積 水田 60 a 畑	1. 施設面積60aのキク専業。 2. 秋ぎくは「神馬」、夏秋ぎくは「精の一世」。 3. 加温は暖房機とヒートポンプを併用。 4. 省力機器として自走式防除機、灌水同時施肥システム、防虫ネット、自動選花結束機を導入。 5. 定植は、秋ぎく9月出荷型(シェード「精の一世」は購入穂使用)を除き、直挿しを導入。 6. 秋ぎく12月出荷と夏秋ぎく8月出荷作型に短茎多収栽培を導入。 7. 11月～翌5月出荷作型は環境制御栽培を導入。 8. 電照栽培としてLEDを使用。 9. 秋ぎく9月出荷作型(シェード「精の一世」では、ヒートポンプ使用による夜冷栽培を導入。
経営目標		1 農業総収入 43,222 千円 2 農業経営費 36,073 千円 3 農業所得 7,322 千円	4 1日当たり農業所得 9,713 円 5 1人当たり年間労働時間 2,115 時間

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所有	取得価格	耐用年数	年間償却額
					千円	年	千円
建物・施設	作業場・倉庫	1	鉄骨・100㎡	1	5,456	24	227
	低コスト耐候性ハウス	3	低コスト耐候性ハウス・1000㎡	1	49,674	14	1,774
	連棟補強型(SRH)ハウス	3	連棟補強2型・1000㎡	1	34,864	8	2,179
	APハウス	1	育苗用・500㎡	1	3,739	8	234
	防油提・オイルタンク	3	1900k	1	3,472	17	204
	計					97,205	
農機具	トラクター	1	15ps	1	1,152	7	82
	土壤消毒機	1	歩行型(管理機付)	1	54	7	4
	耕耘機	1	7ps	1	642	7	46
	管理機	1	6.2ps	1	185	7	13
	動力噴霧機	1	3.1ps	1	138	7	10
	軽ワゴン	1	660cc	1	1,340	4	168
	軽トラック	1	660cc	1	917	4	115
	温風暖房機(煙突セット含む)	6	100,000kcal	1	2,422	7	173
	冷蔵庫	1	3坪	1	1,056	7	75
	自動選花結束機	1	下葉取り、重量選別、自動結束	1	7,304	7	522
	灌水装置	6	コンピュータ制御・電磁弁	1	7,920	7	566
	自走式防除機	6	1式	1	10,560	7	754
	ヒートポンプ	6	10aに1台設置	1	5,280	7	377
	循環扇	18	10aに3台(3連棟×42.5m)	1	792	7	57
	防虫ネット	6	1式	1	798	4	100
	電照設備(LED)	6	1式	1	5,225	7	373
環境制御装置	6	1施設に1台	1	9,293	7	664	
炭酸ガス発生装置	6	1施設に1台	1	1,742	7	124	
局所施用設備	6	1施設に1台	1	2,904	7	207	
計					59,725		4,430

3-1. 技術体系

(秋ギク11月・3月出荷型 二度切り栽培)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
採穂		7月		2	8	16		・50,000本採穂
穂冷蔵		7月	冷蔵庫	1	4	4		・2～3℃で冷蔵
定植準備	土壌消毒 耕うん 整地 基肥施用 ネット設置 支柱設置	7月	土壌消毒機 管理機 トラクター 耕うん機	4	13	52	堆肥3t 苦土石灰 100kg フラワーネット 800m 支柱840本	・窒素、磷酸、加里 各15kg ・フラワーネット 13.5cmの5目
定植	直挿し	8月		4	20	80	穂 45,000本	・中1目あけて4条植え、1目に2本植え
べたがけ設置		8月		2	2	4	石灰マルチ	・べたがけ前に灌水を十分行う。
べたがけ除去		8月		2	2	4		・活着後(7～10日)、べたがけを除去する。
電照管理		8月～9月	電照装置	1	2	2	LED 140個	・電球型LEDを使用 ・深夜4時間の電照 ・消灯は定植後50日目を目安とし、 消灯後12～13日目から3日程度の 再電照を行う。
灌水	頭上、地上灌水	8月～11月	灌水同時 施肥システム	1	8	8		
追肥		9月		1	2	2	肥料	・消灯2週間前と2週間後に2回に分けて施用する。 ・窒素、磷酸、加里各6kg×2回施用
		10月		1	2	2		
ピーナイン散布		10月	動力噴霧機	1	6	6		・発蕾期、摘蕾期に各1,000倍液を、 100リットル/10a茎葉上部に散布。
摘芽、摘蕾		10月～11月		4	60	240		
追肥		11月	灌水同時 施肥システム	1	1	1	肥料	・液肥で窒素、磷酸、加里各6kg施用

収穫、出荷		11月	自動選花 結束機 軽トラック	4	44	176		
病虫害防除		8月～11月	自走式防除機、動力噴霧機	1	15	15		県病虫害防除基準による。
株整理		11月		1	16	16		・地際から5cm程度に切り戻す。
炭酸ガス施用		10月～2月	炭酸ガス発生装置	1	15	15		・施設を加温する時期に合わせて施用を開始。 ・外気濃度400ppmを下回らないように施用。 ・花芽や草姿の様子を観察し、生育状況に合わせた施用を心がける。
電照管理		11月～1月	電照装置	1	2	2		・深夜4時間の電照 ・電照は前作の収穫後半から開始する。 ・消灯時の草丈の目安は50cm程度とする。
温度管理		11月～3月	暖房機 ヒートポンプ	1	24	24	重油 8000 電気 19,966kw	・株の整理後、最低温度を消灯前まで14℃、消灯～発蕾までを16℃、その後収穫までを14℃で管理する。 ・昼温は25℃を目安に換気する。
ジベレリン処理		12月	動力噴霧機	2	3	6		・株の整理後の加温開始時に50ppmを120リットル/10a散布する。
整枝		12月		4	24	96		・茎長が15～20cmで整枝。(古株を整理)
追肥		12月		1	2	2	肥料	・整枝後と消灯2週間後に分けて施用する。 ・窒素、リン酸、加里 各6kg×2
灌水	頭上灌水、点滴灌水	12月～3月		1	8	8		
摘芽、摘蕾		2月		4	60	240		
ピーナイン散布		2月	動力噴霧機	1	6	6		・発蕾期、摘蕾期に各1,000倍液を、100リットル/10a茎葉上部に散布。
収穫、出荷		3月	自動選花 結束機 軽トラック	4	44	176		
病虫害防除		12月～3月	自走式防除機、動力噴霧器	1	15	15		・県病虫害防除基準による。
後かたづけ		3月	軽トラック	2	16	32		
計						1,250		

3-2. 技術体系

(秋ギク12月・4月出荷型 二度切り栽培)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
採穂		8月		2	8	16		・50,000本採穂
穂冷蔵		8月	冷蔵庫	1	4	4		・2～3℃で冷蔵
定植準備	土壌消毒 耕うん 整地 基肥施用 ネット設置 支柱設置	8月	土壌消毒機 管理機 トラクター 耕うん機	4	13	52	堆肥3t 苦土石灰 100kg フラワーネット 800m 支柱840本	・窒素、磷酸、加里 各15kg ・フラワーネット 13.5cmの5目
定植	直挿し	9月		4	20	80	穂 45,000本	・中1目あけて4条植え、1目に2本植え
べたがけ設置		9月		2	2	4	石灰マルチ	・べたがけ前に灌水を十分行う。
べたがけ除去		9月		2	2	4		・活着後(7～10日)、べたがけを除去する。
電照管理		9月～11月	電照装置	1	2	2	LED 140個	・電球型LEDを使用 ・深夜4時間の電照 ・消灯は定植後50日目を目安とし、消灯後12～13日目から3日程度の再電照を行う。
温度管理		9月～12月	暖房機 ヒートポンプ	1	20	20	重油 0ℓ 電気 5,333kw	・消灯前は無加温、消灯後20～25日間を16℃、その後収穫までを14℃で管理する。 ・昼温は25℃を目安に換気する。
灌水	頭上、地上灌水	9月～12月	灌水同時 施肥システム	1	8	8		
追肥		10月		1	2	2	肥料	・消灯2週間前と2週間後に2回に分けて施用する。 ・窒素、磷酸、加里各6kg×2回施用
		11月		1	2	2		
ピーナイン散布		11月、12月	動力噴霧機	1	6	6		・発蕾期、摘蕾期に各1,000倍液を、100リットル/10a茎葉上部に散布。
摘芽、摘蕾		11月		4	60	240		
追肥		11月	灌水同時 施肥システム	1	1	1	肥料	・液肥で窒素、磷酸、加里各6kg施用

収穫、出荷		12月	自動選花 結束機 軽トラック	4	40	176		
病虫害防除		9月～12月	自走式防除機、動力噴霧機	1	15	15		県病虫害防除基準による。
株整理		12月		1	16	16		・地際から5cm程度に切り戻す。
炭酸ガス施用		10月～3月	炭酸ガス発生装置	1	18	18		・施設を加温する時期に合わせて施用を開始。 ・外気濃度400ppmを下回らないように施用。 ・花芽や草姿の様子を観察し、生育状況に合わせて施用を心がける。
電照管理		12月～2月	電照装置	1	2	2		・深夜4時間の電照 ・電照は前作の収穫後半から開始する。 ・消灯時の草丈の目安は50cm程度とする。
温度管理		1月～4月	暖房機 ヒートポンプ	1	24	24	重油 700l 電気 14,733kw	・株の整理後、最低温度を消灯前まで14℃、消灯～発蕾までを16℃、その後収穫までを14℃で管理する。 ・昼温は25℃を目安に換気する。
ジベレリン処理		1月	動力噴霧機	2	3	6		・株の整理後の加温開始時に50ppmを120リットル/10a散布する。
整枝		1月		4	24	96		・茎長が15～20cmで整枝。(古株を整理)
追肥		1月		1	2	2	肥料	・整枝後と消灯2週間後に分けて施用する。 ・窒素、リン酸、加里 各6kg×2
灌水	頭上灌水、点滴灌水	12月～4月		1	8	8		
摘芽、摘蕾		3月		4	60	240		
ビーナイン散布		3月	動力噴霧機	1	6	6		・発蕾期、摘蕾期に各1,000倍液を、100リットル/10a茎葉上部に散布。
収穫、出荷		4月	自動選花 結束機 軽トラック	4	40	176		
病虫害防除		1月～4月	自走式防除機、動力噴霧器	1	15	15		・県病虫害防除基準による。
後かたづけ		4月	軽トラック	2	16	32		
計						1,273		

3-3. 技術体系

(秋ギク1月・5月出荷型 二度切り栽培)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
採穂		9月		2	8	16		・50,000本採穂
穂冷蔵		9月	冷蔵庫	1	4	4		・2～3℃で冷蔵
定植準備	土壌消毒 耕うん 整地 基肥施用 ネット設置 支柱設置	9月	土壌消毒機 管理機 トラクター 耕うん機	4	13	52	堆肥3t 苦土石灰 100kg フラワーネット 800m 支柱840本	・窒素、燐酸、加里 各15kg ・フラワーネット 13.5cmの5目
定植	直挿し	10月		4	20	80	穂 45,000本	・中1目あけて4条植え、1目に2本植え
べたがけ設置		10月		2	2	4	石灰マルチ	・べたがけ前に灌水を十分行う。
べたがけ除去		10月		2	2	4		・活着後(7～10-日)、べたがけを除去する。
電照管理		10月～12月	電照装置	1	2	2	LED 140個	・電球型LEDを使用 ・深夜4時間の電照 ・消灯は定植後50日目を目安とし、消灯後12～13日目から3日程度の再電照を行う。
温度管理		10月～1月	暖房機 ヒートポンプ	1	24	24	重油 300ℓ 電気 12.133kw	・消灯前を14℃、消灯後20～25日間を16℃、その後収穫までを14℃で管理する。 ・昼温は25℃を目安に換気する。
灌水	頭上、地上灌水	10月～1月	灌水同時施肥システム	1	8	8		
追肥		11月		1	2	2	肥料	・消灯2週間前と2週間後に2回に分けて施用する。 ・窒素、燐酸、加里各6kg×2回施用
		12月		1	2	2		
ビーナイン散布		12月、1月	動力噴霧機	1	6	6		・発蕾期、摘蕾期に各1,000倍液を、100リットル/10a茎葉上部に散布。

摘芽、摘蓄		12月		4	60	240		
追肥		12月	灌水同時施肥システム	1	1	1	肥料	・液肥で窒素、燐酸、加里各6kg施用
収穫、出荷		1月	自動選花結束機 軽トラック	4	44	176		
病害虫防除		10月～1月	自走式防除機、動力噴霧機	1	15	15		・県病害虫防除基準による。
株整理		1月		1	16	16		・地際から5cm程度に切り戻す。
炭酸ガス施用		10月～4月	炭酸ガス発生装置	1	21	21		・施設を加温する時期に合わせて施用を開始。 ・外気濃度400ppmを下回らないように施用。 ・花芽や草姿の様子を観察し、生育状況に合わせて施用を心がける。
電照管理		1月～3月	電照装置	1	2	2		・電球 深夜4時間 ・電照は前作の収穫後半から開始する。 ・消灯時の草丈の目安は50cm程度とする。
短日処理	シェード	3月～5月	シェード装置	1	2	2		・消灯後、短日処理を11時間日長で管理する。 ・シェードは夜間解放する。
温度管理		2月～5月	暖房機 ヒートポンプ	1	24	24	重油 200ℓ 電気 9,433kw	・株の整理後、最低温度を消灯前まで14℃、消灯～発蓄までを16℃、その後収穫までを14℃で管理する。 ・昼温は25℃を目安に換気する。
ジベレリン処理		1月	動力噴霧機	2	3	6		・株の整理後の加温開始時に50ppmを120リットル/10a散布する。
整枝		2月		4	24	96		・茎長が15～20cmで整枝。(古株を整理)
追肥		2月		1	2	2	肥料	・整枝後と消灯2週間後に分けて施用する。 ・窒素、燐酸、加里 各6kg×2
灌水	頭上灌水、点滴灌水	1月～5月		1	8	8		
摘芽、摘蓄		4月		4	60	240		
ピーナイン散布		4月	動力噴霧機	1	6	6		・発蓄期、摘蓄期に各1,000倍液を、100リットル/10a茎葉上部に散布。
収穫、出荷		5月	自動選花結束機 軽トラック	4	44	176		
病害虫防除		2月～5月	自走式防除機、動力噴霧器	1	15	15		・県病害虫防除基準による。
後かたづけ		5月	軽トラック	2	16	32		
計						1,282		

3-4. 技術体系

(秋ギク2月出荷型)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
採穂		10月		2	8	16		・50,000本採穂
穂冷蔵		10月	冷蔵庫	1	4	4		・2~3℃で冷蔵
ビニール被覆		10月		4	6	24	ビニール 1000㎡	・5年間使用
内張カーテン		12月		4	5	20	ポリフィルム 1000㎡	
定植準備	耕うん 整地 基肥施用 ネット設置 支柱設置	11月	トラクター 耕うん機	4	12	48	堆肥3t 苦土石灰 100kg フラワーネット 800m 支柱840本	・窒素、リン酸、加里 各15kg ・フラワーネット 13.5cmの5目
寒冷紗被覆		11月		2	2	4		
定植	直挿し	11月		4	20	80	穂 45,000本	・中1目あけて4条植え、1目に2本植え
べたがけ設置		11月		2	2	4	石灰マルチ	・べたがけ前に灌水を十分行う。
べたがけ除去		11月		2	2	4		・活着後(7~10日)、べたがけを除去する。
寒冷紗除去		11月		2	2	4		・ポリ除去後、数日おいて取り除く。
炭酸ガス施用		10月~1月	炭酸ガス発生装置	1	13	12		・施設を加温する時期に合わせて施用を開始。 ・外気濃度400ppmを下回らないように施用。 ・花芽や草姿の様子を観察し、生育状況に合わせた施用を心がける。
電照管理		11月~12月	電照装置	1	2	2	LED 140個	・電球型LEDを使用 ・深夜4時間の電照 ・消灯は定植後50日目を目安とし、消灯後12~13日目から3日程度の再電照を行う。
温度管理		11月~2月	暖房機 ヒートポンプ	1	24	24	重油 500ℓ 電気 17,033kw	・消灯前を14℃、消灯後20~25日間を16℃、その後収穫までを14℃で管理する。 ・昼温は25℃を目安に換気する。
灌水	頭上、地上灌水	11月~2月	灌水同時施肥システム	1	8	8		
追肥		12月		1	2	2	肥料	・消灯2週間前と2週間後に2回に分けて施用する。 ・窒素、リン酸、加里各6kg×2回施用
		1月		1	2	2		
ピーナイン散布		1、2月	動力噴霧機	1	6	6		・発蕾期、摘蕾期に各1,000倍液を、100リットル/10a茎葉上部に散布。
摘芽、摘蕾		1月		4	60	240		
追肥		1月	灌水同時施肥システム	1	1	1	肥料	・液肥で窒素、リン酸、加里各6kg施用
収穫、出荷		2月	自動選花結束機 軽トラック	4	44	176		

病害虫防除		11月～2月	自走式防除機、動力噴霧機	1	15	15		・県病害虫防除基準による。
後かたづけ		2月	軽トラック	2	16	32		
計						728		

3-5. 技術体系

(秋ギク3月出荷型)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
採穂		10月		2	8	16		・50,000本採穂
穂冷蔵		10月	冷蔵庫	1	4	4		・2～3℃で冷蔵
ビニール被覆		10月		4	6	24	ビニール 1000㎡	・5年間使用
内張カーテン		12月		4	5	20	ポリフィルム 1000㎡	
定植準備	耕うん 整地 基肥施用 ネット設置 支柱設置	11月中下	トラクター 耕うん機	4	12	48	堆肥3t 苦土石灰 100kg フラワーネット 800m 支柱840本	・窒素、リン酸、加里 各15kg ・フラワーネット 13.5cmの5目
寒冷紗被覆		11月		2	2	4		
定植	直挿し	11月下		4	20	80	穂 45,000本	・中1目あけて4条植え、1目に2本 植え
べたがけ設置		11月下		2	2	4	石灰マルチ	・べたがけ前に灌水を十分行う。
べたがけ除去		11月中下		2	2	4		・活着後(7～10日)、べたがけを 除去する。
寒冷紗除去		11月中下		2	2	4		・ポリ除去後、数日おいて取り除く。
炭酸ガス施用		10月～2月	炭酸ガス 発生装置	1	15	15		・施設を加温する時期に合わせて施 用を開始。 ・外気濃度400ppmを下回らないよ うに施用。 ・花芽や草姿の様子を観察し、生育 状況に合わせた施用を心がける。
電照管理		11月～12月	電照装置	1	2	2	LED 140個	・電球型LEDを使用 ・深夜4時間の電照 ・消灯は定植後50日目を目安とし、 消灯後12～13日目から3日程度の 再電照を行う。
温度管理		11月～3月	暖房機 ヒートポン プ	1	24	24	重油 800ℓ 電気 18,561kw	・消灯前を14℃、消灯後20～25日間 を16℃、その後収穫までを14℃で 管理する。 ・昼温は25℃を目安に換気する。
灌水	頭上、地上灌 水	11月～3月	灌水同時 施肥シス テム	1	8	8		
追肥		1月		1	2	2	肥料	・消灯2週間前と2週間後に2回に分 けて施用する。 ・窒素、リン酸、加里各6kg×2回施用
		2月		1	2	2		
ピーナイン散布		2、3月	動力噴霧 機	1	6	6		・発蕾期、摘蕾期に各1,000倍液を、 100リットル/10a茎葉上部に散布。
摘芽、摘 蕾		2月		4	60	240		
追肥		2月	灌水同時 施肥シス テム	1	1	1	肥料	・液肥で窒素、リン酸、加里各6kg施用
収穫、出 荷		3月	自動選花 結束機 軽トラック	4	44	176		

病害虫防除		11月～3月	自走式防除機、動力噴霧機	1	15	15		・県病害虫防除基準による。
後かたづけ		4月	軽トラック	2	16	32		
計						731		

3-6. 技術体系

(秋ギク10月出荷型)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
採穂		6月		2	8	16		・50,000本採穂
穂冷蔵		6月	冷蔵庫	1	4	4		・2～3℃で冷蔵
定植準備	土壌消毒 耕うん 整地 基肥施用 ネット設置 支柱設置	6月	土壌消毒機 管理機 トラクター 耕うん機	4	13	52	堆肥3t 苦土石灰 100kg フラワーネット 800m 支柱840本	・窒素、リン酸、加里 各15kg ・フラワーネット 13.5cmの5目
寒冷紗被覆		7月		2	2	4		
定植	直挿し	7月		4	20	80	穂 45,000本	・中1目あけて4条植え、1目に2本植え
べたがけ設置		7月		2	2	4	石灰マルチ	・べたがけ前に灌水を十分行う。
べたがけ除去		7月		2	2	4		・活着後(7～10日)、べたがけを除去する。
寒冷紗除去		7月		2	2	4		・ポリ除去後、数日おいて取り除く。
電照管理		7月～8月	電照装置	1	2	2	LED 140個	・電球形LEDを使用 ・深夜4時間の電照 ・消灯は定植後50日目を目安とし、消灯後12～13日目から3日程度の再電照を行う。
短日処理	シェード	8月～10月	シェード装置	1	2	2		・消灯後、短日処理を11時間日長で管理する。 ・シェードは夜間解放する。
灌水	頭上、地上灌水	7月～10月	灌水同時施肥システム	1	8	8		
追肥		8月		1	2	2	肥料	・消灯2週間前と2週間後に2回に分けて施用する。 ・窒素、リン酸、加里各6kg×2回施用
		9月		1	2	2		
ピーニン散布		9月	動力噴霧機	1	6	6		・発蕾期、摘蕾期に各1,000倍液を、100リットル/10a茎葉上部に散布。
摘芽、摘蕾		9月		4	60	240		
追肥		9月	灌水同時施肥システム	1	1	1	肥料	・液肥で窒素、リン酸、加里各3kg施用
収穫、出荷		10月	自動選花結束機 軽トラック	4	40	160		
病害虫防除		7月～10月	自走式防除機、動力噴霧機	1	15	15		・県病害虫防除基準による。
後かたづけ		10月	軽トラック	2	16	32		
計						638		

3-7. 技術体系 (秋ギク11月出荷型)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
採穂		7月		2	8	16		・50,000本採穂
穂冷蔵		7月	冷蔵庫	1	4	4		・2~3°Cで冷蔵
定植準備	土壌消毒 耕うん 整地 基肥施用 ネット設置 支柱設置	7月	土壌消毒機 管理機 トラクター 耕うん機	4	13	52	堆肥3t 苦土石灰 100kg フラワーネット 800m 支柱840本	・窒素、燐酸、加里各15kg ・フラワーネット 13.5cmの5目
寒冷紗被覆		8月		2	2	4		
定植	直挿し	8月		4	20	80	穂 45,000本	・中1目あけて4条植え、1目に2本植え
べたがけ設置		8月		2	2	4	石灰マルチ	・べたがけ前に灌水を十分行う。
べたがけ除去		8月		2	2	4		・活着後(7~10日)、べたがけを除去する。
寒冷紗除去		8月		2	2	4		・ポリ除去後、数日おいて取り除く。
炭酸ガス施用		10月	炭酸ガス発生装置	1	3	3		・施設を加温する時期に合わせて施用を開始。 ・外気濃度400ppmを下回らないように施用。 ・花芽や草姿の様子を観察し、生育状況に合わせた施用を心がける。
電照管理		8月~9月	電照装置	1	2	2	LED 140個	・電球形蛍光灯を使用 ・深夜4時間の電照 ・消灯は定植後50日目を目安とし、消灯後12~13日目から3日程度の再電照を行う。
灌水	頭上、地上灌水	8月~11月	灌水同時施肥システム	1	8	8		
追肥		9月		1	2	2	肥料	・消灯2週間前と2週間後に2回に分けて施用する。 ・窒素、燐酸、加里各6kg×2回施用
		10月		1	2	2		
ピーナイン散布		10月	動力噴霧機	1	6	6		・発蕾期、摘蕾期に各1,000倍液を、100リットル/10a茎葉上部に散布。
摘芽、摘蕾		10月		4	60	240		
追肥		10月	灌水同時施肥システム	1	1	1	肥料	・液肥で窒素、燐酸、加里各6kg施用
収穫、出荷		11月	自動選花結束機 軽トラック	4	44	176		
病虫害防除		8月~11月	自走式防除機、動力噴霧機	1	15	15		・県病虫害防除基準による。
後かたづけ		11月	軽トラック	2	16	32		
計						655		

3-8. 技術体系

(秋ギク12月出荷型 短茎多収栽培)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
採穂		8月		2	9	18		・60,000本採穂
穂冷蔵		8月	冷蔵庫	1	4	4		・2~3°Cで冷蔵
ビニール被覆		8月		4	6	24	ビニール 1000㎡	・5年間使用
定植準備	土壌消毒 耕うん 整地 基肥施用 ネット設置 支柱設置	8月	土壌消毒機 管理機 トラクター 耕うん機	4	13	52	堆肥3t 苦土石灰 100kg フラワーネット 800m 支柱840本	・窒素、リン酸、加里 各15kg ・フラワーネット 13.5cmの5目
寒冷紗被覆		9月		2	2	4		
定植	直挿し	9月		4	24	96	穂 55,000本	・5条植え、1目に2本植え
べたがけ設置		9月		2	2	4	石灰マルチ	・べたがけ前に灌水を十分行う。
べたがけ除去		9月		2	2	4		・活着後(7~10日)、べたがけを除去する。
寒冷紗除去		9月		2	2	4		・ポリ除去後、数日おいて取り除く。
炭酸ガス施用		10月	炭酸ガス発生装置	1	6	6		・施設を加温する時期に合わせて施用を開始。 ・外気濃度400ppmを下回らないように施用。 ・花芽や草姿の様子を観察し、生育状況に合わせた施用を心がける。
電照管理		9月~10月	電照装置	1	2	2	LED 140個	・電球型蛍光灯を使用 ・深夜4時間の電照 ・消灯は定植後50日目を目安とし、消灯後12~13日目から3日程度の再電照を行う。
温度管理		10月~12月	暖房機	1	24	24	重油 0ℓ 電気 5,361kw	・消灯前は無加温、消灯後20~25日間を16°C、その後収穫までを14°Cで管理する。 ・室温は25°Cを目安に換気する。
灌水	頭上、地上灌水	9月~12月	灌水同時施肥システム	1	8	8		
追肥		10月		1	2	2	肥料	・消灯2週間前と2週間後に2回に分けて施用する。 ・窒素、リン酸、加里各6kg×2回施用
		11月		1	2	2		
ビーナイン散布		11月、12月	動力噴霧機	1	6	6		・発蕾期、摘蕾期に各1,000倍液を、100リットル/10a茎葉上部に散布。
摘芽、摘蕾		11月		4	60	240		
追肥		12月	灌水同時施肥システム	1	1	1	肥料	・液肥で窒素、リン酸、加里各6kg施用
収穫、出荷		12月	自動選花結束機 軽トラック	4	50	200		
病害虫防除		9月~12月	自走式防除機、動力噴霧機	1	15	15		・県病害虫防除基準による。
後かたづけ		12月	軽トラック	2	16	32		
計						748		

3-9. 技術体系 (夏秋ギク6月出荷型)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
採穂		1月、2月		2	8	16		・50,000本採穂
穂冷蔵		1月、2月	冷蔵庫	1	4	4		・2~3℃で冷蔵
定植準備	耕うん 整地 基肥施用 ネット設置 支柱設置	2月	トラクター 耕うん機	4	12	48	堆肥3t 苦土石灰 100kg フラワーネット 800m 支柱840本	・窒素、燐酸、加里 各15kg ・フラワーネット 13.5cmの5目
定植	直挿し	2月		4	20	80	穂 45,000本	・中1目あけて4条植え、1目に2本 植え
べたがけ 設置		2月		2	2	4	石灰マルチ	・べたがけ前に灌水を十分行う。
べたがけ 除去		2月		2	2	4		・活着後(7~10日)、べたがけを 除去する。
電照管理		2月~4月	電照装置	1	2	2	LED 140個	・電球型LEDを使用 ・深夜4~5時間の電照 ・消灯は4月上旬 ・消灯後11~13日後頃に3~5日 程度再電照を行う。
温度管理 (換気)		2月~5月		1	10	10		
灌水	頭上、地上 灌水	2月~6月	灌水同時 施肥シス テム	1	8	8		
追肥		3月		1	2	2	肥料	・消灯2週間前と2週間後に2回に分 けて施用する。 ・窒素、燐酸、加里各6kg×2回施用
		4月		1	2	2		
ピーナイ ン散布		4、5月	動力噴霧 機	1	6	6		・発蕾期、摘蕾期に各1,000倍液を、 100リットル/10a茎葉上部に散布。
摘芽、摘 蕾		4、5月		4	45	180		
収穫、出 荷		6月	自動選花 結束機 軽トラック	4	40	160		
病害虫防 除		2月~6月	自走式防 除機、動 力噴霧機	1	15	15		・県病害虫防除基準による。
後かたづ け		6月	軽トラック	2	16	32		
計						573		

3-10. 技術体系 (夏秋ギク7月出荷型)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
採穂		2月、3月		2	8	16		・50,000本採穂
穂冷蔵		2月、3月	冷蔵庫	1	4	4		・2~3°Cで冷蔵
定植準備	耕うん 整地 基肥施用 ネット設置 支柱設置	3月	トラクター 耕うん機	4	12	48	堆肥3t 苦土石灰 100kg フラワーネット 800m 支柱840本	・窒素、リン酸、加里 各15kg ・フラワーネット 13.5cmの5目
寒冷紗被覆		3月		2	2	4		
定植	直挿し	3月		4	20	80	穂 45,000本	・中1目あけて4条植え、1目に2本植え
べたがけ設置		3月		2	2	4	石灰マルチ	・べたがけ前に灌水を十分行う。
べたがけ除去		3月		2	2	4		・活着後(7~10日)、べたがけを除去する。
寒冷紗除去		3月		2	2	4		・ポリ除去後、数日おいて取り除く。
電照管理		3月~5月	電照装置	1	2	2	LED 140個	・電球型LEDを使用 ・深夜4~5時間の電照 ・消灯は5月上~中旬。 ・消灯後11~13日後頃に3~5日程度再電照を行う。
温度管理(換気)		3月~5月		1	5	5		
灌水	頭上、地上灌水	3月~7月	灌水同時施肥システム	1	8	8		
追肥		4月		1	2	2	肥料	・消灯2週間前と2週間後に2回に分けて施用する。 ・窒素、リン酸、加里各6kg×2回施用
		5月		1	2	2		
ビーナイン散布		6月	動力噴霧機	1	6	6		・発蕾期、摘蕾期に各1,000倍液を、100リットル/10a茎葉上部に散布。
摘芽、摘蕾		6月		4	45	180		
収穫、出荷		7月	自動選花結束機 軽トラック	4	40	160		
病害虫防除		3月~7月	自走式防除機、動力噴霧機	1	15	15		・県病害虫防除基準による。
後かたづけ		7月	軽トラック	2	16	32		
計						576		

3-11. 技術体系 (夏秋ギク8月出荷型)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
採穂		3月、4月		2	4	8		・25,000本採穂
穂冷蔵		3月、4月	冷蔵庫	1	2	2		・2～3℃で冷蔵
定植準備	耕うん 整地 基肥施用 ネット設置 支柱設置	4月	トラクター 耕うん機	4	12	48	堆肥3t 苦土石灰 100kg フラワーネット 800m 支柱840本	・窒素、リン酸、加里 各20kg ・フラワーネット 13.5cmの5目
定植	直挿し	4月		4	20	80	穂 45,000本	・中1目あけて4条植え、1日に2本 植え
べたがけ 設置		4月		2	2	4	石灰マルチ	・べたがけ前に灌水を十分行う。
べたがけ 除去		4月		2	2	4		・活着後(7～10日)、べたがけを 除去する。
電照管理		4月～6月	電照装置	1	2	2	LED 140個	・電球型LEDを使用 ・深夜4～5時間の電照 ・消灯は5月上～中旬。 ・消灯後13～15日目から3日程度再 電照を行う。
温度管理 (換気)		4月～5月		1	2	2		
灌水	頭上、地上灌水	4月～8月	灌水同時 施肥システム	1	8	8		
追肥		5月		1	2	2	肥料	・消灯2週間前と2週間後に2回に分 けて施用する。 ・窒素、リン酸、加里各6kg×2回施用
		6月		1	2	2		
ピーニン 散布		7月	動力噴霧 機	1	6	6		・発蕾期、摘蕾期に各1,000倍液を、 100リットル/10a茎葉上部に散布。
摘芽、摘 蕾		7月		4	20	80		
収穫、出 荷		8月	自動選花 結束機 軽トラック	4	40	160		
病虫害防 除		4月～8月	自走式防 除機、動 力噴霧機	1	15	15		・県病虫害防除基準による。
後かたづ け		8月	軽トラック	2	16	32		
計						455		

3-12. 技術体系 (夏秋ギク8月出荷型 短茎多収栽培)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
採穂		3月、4月		2	5	10		・30,000本採穂
穂冷蔵		3月、4月	冷蔵庫	1	2	2		・2～3℃で冷蔵
定植準備	耕うん 整地 基肥施用 ネット設置 支柱設置	4月	トラクター 耕うん機	4	12	48	堆肥3t 苦土石灰 100kg フラワーネット 800m 支柱840本	・窒素、リン酸、加里 各20kg ・フラワーネット 13.5cmの5目
寒冷紗被覆		4月		2	2	4		
定植	直挿し	4月		4	24	96	穂 55,000本	・5条植え、1目に2本植え
べたがけ設置		4月		2	2	4	石灰マルチ	・べたがけ前に灌水を十分行う。
べたがけ除去		4月		2	2	4		・活着後(7～10日)、べたがけを除去する。
寒冷紗除去		4月		2	2	4		・ポリ除去後、数日おいて取り除く。
電照管理		4月～6月	電照装置	1	2	2	LED 140個	・電球型LEDを使用 ・深夜4～5時間の電照 ・消灯は5月上～中旬。 ・消灯後13～15日目から3日程度再電照を行う。
温度管理(換気)		4月～5月		1	2	2		
灌水	頭上、地上灌水	4月～8月	灌水同時 施肥システム	1	8	8		
追肥		5月		1	2	2	肥料	・消灯2週間前と2週間後に2回に分けて施用する。 ・窒素、リン酸、加里各6kg×2回施用
		6月		1	2	2		
ピーナイン散布		7月	動力噴霧機	1	6	6		・発蕾期、摘蕾期に各1,000倍液を、100リットル/10a茎葉上部に散布。
摘芽、摘蕾		7月		4	25	100		
収穫、出荷		8月	自動選花 結束機 軽トラック	4	48	192		
病虫害防除		4月～8月	自走式防除機、動力噴霧機	1	15	15		・県病虫害防除基準による。
後かたづけ		8月	軽トラック	2	16	32		
計						533		

3-13. 技術体系 (夏秋ギク9月出荷型)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
定植準備	耕うん 整地 基肥施用 ネット設置 支柱設置	5月	トラクター 耕うん機	4	12	48	堆肥3t 苦土石灰 100kg フラワーネット 800m 支柱840本	・窒素、磷酸、加里 各20kg ・フラワーネット 13.5cmの5目
寒冷紗被覆		5月		2	2	4		
定植	直挿し	5月		4	20	80	穂 45,000本	・中1目あけて4条植え、1目に2本 植え
べたがけ 設置		5月		2	2	4	石灰マルチ	・べたがけ前に灌水を十分行う。
べたがけ 除去		5月		2	2	4		・活着後(7~10日)、べたがけを 除去する。
寒冷紗除 去		5月		2	2	4		・ポリ除去後、数日おいて取り除く。
電照管理		5月~7月	電照装置	1	2	2	LED 140個	・電球型LEDを使用 ・深夜4~5時間の電照 ・消灯は5月上~中旬。 ・消灯後13日目から3日程度再電照 を行う。
温度管理 (夜間冷 房)		7月~9月	ヒートポン プ 自動カー テン	1	3	3	消費電気 5,684kw	・消灯~発蕾まで、18時~7時まで 夜温23°Cで管理する。
短日処理	シェード	7月~9月	シェード 装置	1	2	2		・消灯後、短日処理を11時間日長 で管理する。 ・シェードは夜間解放する。
灌水	頭上、地上灌 水	5月~9月	灌水同時 施肥シス テム	1	8	8		
追肥		6月		1	2	2	肥料	・消灯2週間前と2週間後に2回に分 けて施用する。 ・窒素、磷酸、加里各6kg×2回施用
		7月		1	2	2		
ピーナイ ン散布		8月	動力噴霧 機	1	6	6		・発蕾期、摘蕾期に各1,000倍液を、 100リットル/10a茎葉上部に散布。
摘芽、摘 蕾		8月		4	15	60		
収穫、出 荷		9月	自動選花 結束機 軽トラック	4	40	160		
病害虫防 除		5月~9月	自走式防 除機、動 力噴霧機	1	15	15		・県病害虫防除基準による。
後かたづ け		9月	軽トラック	2	16	32		
計						436		

3-14. 技術体系 (秋ギク親株)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
(元株) 台刈り		2月	刈払機	1	2	2		・秋ギクの元株は、12月出荷の切り下株を利用
ビニール被覆(育苗、親株)		3月		3	4	12	・ビニール 500㎡	
(親株) 挿し芽床作り		4月、7月		2	4	8	ハﾟﾗｲﾄ 800L ﾋﾟｰﾄﾞﾓｽ 400L 育苗箱(50×35×8cm)300箱	
採穂 挿し芽		4月、7月		2	19	38	挿し穂 25,000本	・育苗箱に100本/箱挿し芽
親株定植準備	土壌消毒 耕うん 整地 基肥施用	5月、7月	土壌消毒機 管理機 トラクター 耕うん機	3	16	48	500㎡あたり 堆肥1000kg 苦土石灰50kg	・親株床 500㎡ ビニールハウス ・窒素、磷酸、加里各5kg
親株定植		5月、7月		3	27	81		・15×15cm、4条植え ・畦幅60cm、通路50cm
摘心		5月、8月		2	13	26		
電照管理		5月～10月	電照装置	1	2	2	LED	・電球型LEDを使用 ・深夜4時間の電照
ビーエー剤散布		5月～9月	動力噴霧機	1	15	15	ビーエー剤	
病害虫防除		5月～10月	動力噴霧機	1	15	15		・県病害虫防除基準による。
計						247		

3-15. 技術体系 (夏秋ギク親株)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
夏ギク親株床準備	土壌消毒 耕うん 整地 基肥施用	9月	土壌消毒機 管理機 トラクター 耕うん機	2	12	24	500㎡あたり 堆肥1000kg 苦土石灰50kg	・親株床 500㎡ ・ビニールハウス ・窒素、リン酸、加里 各5kg
親株移植		9月		2	8	16	8月出荷分の 切り下株	・15×15cm、4条植え ・畦幅60cm、通路50cm
親株管理	灌水、除草	9月～4月		1	6	6		
台刈り 土寄せ		11月	刈払機 管理機	1	4	4		
ビニール 被覆		12月		2	4	8		
電照管理		3～5月	電照装置	1	2	2	LED	・電球型LEDを使用 ・深夜4時間の電照
病害虫防除		9月～4月	動力噴霧機	1	8	8		・県病害虫防除基準による。
計						68		

4. 品目の作付体系 (△直挿し、□出荷)

品目(作型)	施設	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋ギク1月・5月出荷(二度切り栽培)	低コスト耐候性ハウス	□				□					△		
秋ギク9月出荷							△			□			
秋ギク12月・4月出荷(二度切り栽培)	低コスト耐候性ハウス				□					△			□
夏秋ギク8月出荷						△				□			
秋ギク11月・3月出荷(二度切り栽培)	低コスト耐候性ハウス			□					△			□	
夏秋ギク7月出荷					△					□			
秋ギク10月出荷	連棟補強ハウス								△			□	
秋ギク2月出荷			□									△	
夏秋ギク6月出荷				△								□	
秋ギク11月出荷	連棟補強ハウス								△			□	
秋ギク3月出荷					□								△
夏秋ギク8月出荷(短茎多収栽培)	連棟補強ハウス					△				□			
秋ギク12月出荷(短茎多収栽培)										△			□

5. 作業別・旬別労働時間(10a:当たり時間)

1) 秋ギク11月・3月出荷型 二度切り栽培

品目・作業/月・旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
採種																									16
種冷蔵																									4
定植準備																									4
定植																									52
べたがけ設置																									80
べたがけ除去																									4
電照管理																									4
灌水																									2
追肥																									8
追肥																									2
ピーナイン散布																									2
摘芽・摘蕾																									6
追肥																									240
追肥																									1
収穫・出荷																									176
病害虫防除																									15
株整理																									15
炭酸ガス施用	1	1	1	1	1	1																			2
電照管理	1	1	1	1	1	1																			2
温度管理	2	2	2	2	2	2																			24
ジベレリン処理																									6
整枝																									6
追肥																									2
灌水																									2
摘芽・摘蕾	2	1	1	1	1	1																			8
ピーナイン散布																									240
摘芽・摘蕾																									6
ピーナイン散布																									176
収穫・出荷																									15
病害虫防除																									15
後かたづけ																									32
計	3	3	9	89	84	87	94	91	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
月計	15		260			217								72				9		257		207		118	1,250

2) 秋ギク12月・4月出荷型 二度切り栽培

品目・作業/月・旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
採種																									16
種冷蔵																									4
定植準備																									4
定植																									52
べたがけ設置																									80
べたがけ除去																									4
電照管理																									4
温度管理																									2
ジベレリン処理																									2
整枝																									2
追肥																									2
追肥																									2
ピーナイン散布																									240
摘芽・摘蕾																									6
追肥																									176
収穫・出荷																									18
病害虫防除																									2
後かたづけ																									24
計	38	37	37	5	5	5	88	86	86	93	91	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	84
月計	112		15			260								216				97		18		261		222	1,273

3) 秋ギク1月・5月出荷型 二度切り栽培

品目・作業/月・旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計	
	上	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
採種																								16		
穂冷蔵																								4		
定植準備																								52		
定植																								80		
べたがけ設置																								4		
べたがけ除去																								4		
電照管理	2	2	2																					2		
温度管理	1	1																						2		
灌水																								8		
追肥																								2		
追肥																								2		
ピーナイン散布	3																							6		
摘芽・摘蕾																								240		
追肥																								1		
収穫・出荷	88	88																						176		
病虫害防除	2	1																						15		
採種																								16		
脱酸ガス施用	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	21		
電照管理																								2		
短日処理																								2		
温度管理	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24		
ジベレリン処理	6																							6		
整枝			32	32	32																			96		
追肥																								2		
灌水	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8		
摘芽・摘蕾																								240		
ピーナイン散布																								6		
収穫・出荷																								176		
病虫害防除																								15		
後かたづけ																								32		
計	12	96	115	38	37	37	6	5	89	84	86	92	92	32	0	0	0	24	6	42	91	9	4	89	89	85
月計	223			112		16		259		216		0		0	0	0	0	72		104		17	263			

4) 秋ギク2月出荷型

品目・作業/月・旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計		
	上	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下				
採種																								16			
穂冷蔵																								4			
ピーナイン散布																								24			
定植準備																								20			
定植																								48			
べたがけ設置																								4			
べたがけ除去																								4			
電照管理	1	1	1																					4			
脱酸ガス施用																								4			
電照管理	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2			
温度管理	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8			
灌水																								2			
追肥																								2			
追肥																								2			
ピーナイン散布	2																							6			
摘芽・摘蕾	80	80	80																					240			
追肥																								1			
収穫・出荷																								176			
病虫害防除	2	1	1	2	1																			15			
後かたづけ																								32			
計	86	91	84	8	92	90	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	49	7	39	95	9	8	28	5
月計	261			190		32		0		0		0		0	0	0	0	0	95		112		38				

9) 夏秋ギク6月出荷型

品目・作業/月・旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
採種																								16	
種冷蔵																								8	
定植準備																								2	
定植																								48	
ベタかけ設置																								80	
ベタかけ除去																								4	
電照管理																								4	
温度管理(換気)																								2	
灌水																								10	
追肥																								8	
追肥																								2	
ピーナイン散布																								2	
摘芽・摘蕾																								6	
収穫・出荷																								180	
病害虫防除																								160	
後かたづけ																								32	
計	0	0	3	34	119	6	3	5	2	5	44	47	33	45	31	83	81	32	0	0	0	0	0	0	573
月計	3		159			10		96				196													

10) 夏秋ギク7月出荷型

品目・作業/月・旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
採種																								16	
種冷蔵																								4	
定植準備																								48	
定植																								4	
ベタかけ設置																								80	
ベタかけ除去																								4	
電照管理																								4	
温度管理(換気)																								4	
灌水																								2	
追肥																								2	
追肥																								2	
ピーナイン散布																								6	
摘芽・摘蕾																								180	
収穫・出荷																								160	
病害虫防除																								15	
後かたづけ																								32	
計	0	0	0	0	5	34	121	9	3	5	1	4	3	3	66	62	64	83	81	32	0	0	0	0	576
月計	0	0	5		164		9		10	192				196											

11) 夏秋ギク8月出荷型

品目・作業/月・旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
採種																								8	
種冷蔵																								2	
定植準備																								48	
定植																								0	
ベタかけ設置																								80	
ベタかけ除去																								4	
電照管理																								4	
温度管理(換気)																								0	
灌水																								2	
追肥																								2	
追肥																								2	
ピーナイン散布																								6	
摘芽・摘蕾																								80	
収穫・出荷																								160	
病害虫防除																								15	
後かたづけ																								32	
計	0	0	0	0	0	0	0	5	29	112	4	2	5	1	3	3	36	32	24	83	81	32	0	0	455
月計	0	0	0	0	5		145		8	9				92			0								

12) 夏秋ギク8月出荷型短蓋多収

品目・作業/月・旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
採種																									10	
種冷蔵																									2	
定植準備																									48	
寒冷紗被覆																									4	
定植																									96	
べたがけ設置																									4	
べたがけ除去																									4	
寒冷紗除去																									4	
電照管理																									2	
温度管理(換気)																									2	
灌水																									8	
追肥																									2	
追肥																									2	
ピーナイン散布																									6	
摘葉 摘蕾																									100	
収穫 出荷																									192	
病害虫防除																									15	
後かたづけ																									32	
計	0	0	0	0	0	0	6	24	140	2	4	2	3	3	46	32	34	99	97	32	0	0	0	0	0	533
月計	0	0	0	0	0	6	170		8		9	112		228		0	0	0	0	0	0	0	0	0		

13) 秋ギク9月出荷型

品目・作業/月・旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
定植準備																									48	
寒冷紗被覆																									4	
定植																									80	
べたがけ設置																									4	
べたがけ除去																									4	
寒冷紗除去																									4	
電照管理																									2	
温度管理(夜間冷房)																									3	
短日処理																									2	
灌水																									8	
追肥																									2	
追肥																									2	
ピーナイン散布																									6	
摘葉 摘蕾																									60	
収穫 出荷																									160	
病害虫防除																									15	
後かたづけ																									32	
計	0	0	0	0	0	0	0	0	24	24	99	2	4	2	2	5	3	27	22	25	83	82	32	0	0	436
月計	0	0	0	0	0	0	147		8		197		74		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

14) 秋ギク結株

品目・作業/月・旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
(元株)台刈り																									2
ビニル被覆 (育苗、結株)																									12
(結株)挿し芽作り																									8
採種、挿し芽																									38
結株定植準備																									48
結株定植																									81
摘心																									20
電照管理																									2
ピーナイン散布																									15
病害虫防除																									15
計	0	0	0	0	0	0	0	4	19	12	52	18	0	0	5	35	53	19	1	0	6	0	0	0	247
月計	0	0	0	2	0	0	12	23	82	5	107	7	3	6	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	

15) 夏秋ギノ親株

品目・作業/月・旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計
	上	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
夏ギノ親株床準備																								24	
親株移植																		16						16	
親株管理																								6	
台刈り土寄せ																								4	
ビニール被覆																								8	
電照管理																								2	
病害虫防除																								8	
計	0	0	1	0	0	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	68	
月計	1		2		3		3		3		0	0	0	0	0	0	0	42	2	6	6	9	9		

6. 総労働時間

	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計												
	上	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下														
総労働時間	144	235	253	429	318	264	399	248	364	332	169	225	186	181	159	151	342	221	201	467	230	186	300	297	197	427	283	292	468	400	366	400	340	203	10,193		
うち家族労働	86	136	154	147	251	173	152	230	148	148	216	217	108	159	137	127	112	108	247	168	148	287	146	130	215	211	146	268	163	170	216	191	198	234	189	128	6,264
うち雇用労働	58	99	99	112	178	145	112	169	109	148	115	61	66	49	54	47	43	85	53	53	180	84	56	85	86	51	159	120	122	252	209	168	166	151	75	3,929	